

圧延工場を預かって

JFEスチール株式会社 酒井 貴広
(2017 年修士卒 川田研)

皆さま初めまして、川田研究室卒(2017 年修士卒)の酒井と申します。在学中は、カーボンナノチューブ(CNT)の凝集性を利用した CNT 系の機械特性に関する研究を行っていました。川田研究室の OB のご縁で、現在は岡山県の水島コンビナートの製鉄所(JFE スチール西日本製鉄所倉敷地区)で働いています。製鉄所というのは想像よりも広く、私がいるところは千代田区とほぼ同じ面積だそうです。製鉄所内は自動車や鉄道が走っており、ゴルフ場なんかもあります。その製鉄所の中で、熱延鋼板・自動車鋼板・パイプ素材・電磁鋼板などのホットコイルを製造する生産ラインが熱延工場です。私はそこで副工場長を務めています。

1000℃以上に加熱された真っ赤な高温の鉄を高速圧延する熱延工場では、日々エキサイティングなイベントがおこります。新規材開発、プロセス実験、設備改造・建設、そして想像を超えるトラブルなどが日常茶飯事です。私の役割は、いつでもその最前線に立って、これらのミッションに立ち向かうことです。

私の武器は、機械工学の 4 力学・問題解決力・適度なメンタルと鈍感力です。これらはすべて在学中に機械工学科で身に着けたものです。また、経営者と変わらない感覚で、工場マネジメントができることも副工場長の醍醐味です。国内粗鋼生産量の約 5%の鉄が私の担当ラインで製造されていると思うとやりがいや使命感を強く感じます。1970 年に稼働した熱延工場は御年 55 歳となりますが、最近では最新のセンサを大量に取り付け、物理現象を見える化し、DX 化を急加速で進めています。製鉄所の製造ラインは、時代のニーズに合わせて設備投資や改造を繰り返し行い、現在の姿になっています。そんな完成のない製造ラインには、多くの先輩エンジニアのアイデアや思いが込められており、そこに自分の思いや思想を加えた改造・改善ができるのも鉄鋼エンジニアの面白いところです。新ラインの建設も良いですが、既設ラインの継ぎ足し改造は難しく、そして非常に面白いです。

岡山県は「晴れの国」として知られています。休日は穏やかな気候の中で、子供たちを連れて公園に出かけるなど、オフの時間も大切にしています。幼稚園の参観日は必ず参加し、子供の成長に感動する毎日です。“Never up, Never in” は勇敢に攻める姿勢を賞賛する言葉であり、この精神を持って社会で頑張りなさいと川田先生から送り出されました。目まぐるしく変化する時代の中で、前進し続けることを忘れずに。私今、先生方に鍛えてもらった頭脳と経験を生かして、使命感を持って社会に還元しています。



デスクワーク中の筆者



筆者が務める工場の熱間圧延システム



子供の幼稚園の参観日にて